○　シロアリ被害対策について

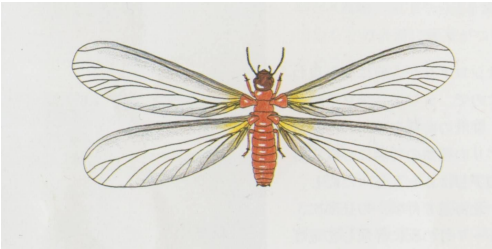
シロアリは雑食性の昆虫で、木材、レンガ、コンクリートや発泡スチロール（住宅の断熱材）などを加害します。

木造住宅の耐久性や強度は、柱、土台などの住宅を支えている主要構造部がシロアリ被害をうけることにより低下しますので、住宅を長期にわたり良好な状態で使用するためにはシロアリ対策は大切なことです。

住宅に被害を及ぼすシロアリで四国に生息しているのは、主にヤマトシロアリとイエシロアリの２種類ですが、最近、アメリカ原産のアメリカカンザイシロアリが見られるようになっています。

また、蟻はシロアリとよく似ていますが、蟻は住宅に被害を及ぼさないので、シロアリと蟻を見分ける必要があります。その見分け方は次のとおりです。

●羽アリで見分ける（生殖期に飛びます）

	蟻	シロアリ
姿図		
胴体	強くくびれている	ずんどう、棒状
翅（はね）	前翅は大きく、後翅は小さい	４枚とも同じ大きさ

◎ シロアリの種類別の見分け方や特徴などは次のとおりです。

● 兵アリで見分ける（被害箇所などからシロアリの兵アリを捕まえて頭部の形状より判定する）

ヤマトシロアリ	イエシロアリ	アメリカカンザイシロアリ
体長は 4～6 ㎜。頭部は円筒形で体長約 1/2 の長さ。	体長は 4.5～6.5㎜。頭部は卵形で体長の約 1/3 の長さ。アリに触れると、頭部先端から乳白色の液を出す。	体長は 9～11㎜。頭部はヤマトシロアリに似ているが、体長が約２倍あり、頭部は体長の約 1/3 の長さ。

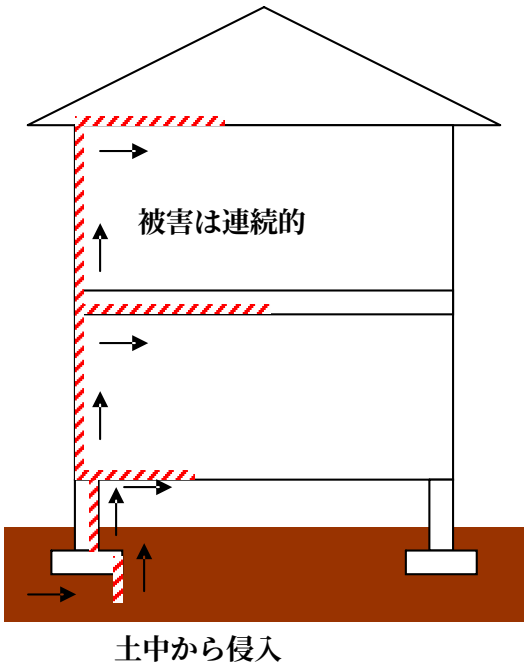
● 多数のシロアリの羽アリが生殖期に巣からいっせいに飛び立つ（群飛）時期は次のとおりです。

ヤマトシロアリ	イエシロアリ	アメリカカンザイシロアリ
4～6 月、穏やかな天気で気温が上がった日。昼間。	6,7 月、蒸し暑い日の夕刻。	6～10 月、気温が急に上がった日。環境条件によっては、1 年中。

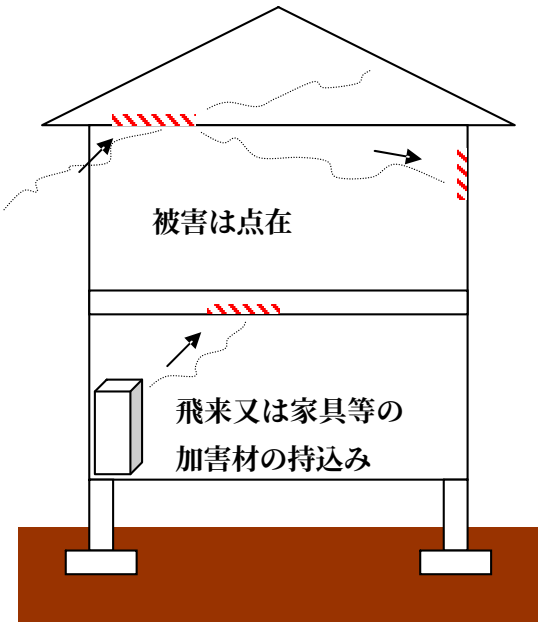
● シロアリの習性、被害箇所等は次のとおりです。

ヤマトシロアリ	イエシロアリ	アメリカカンザイシロアリ
木材中に数十万匹規模の巣をつくり、湿潤なところを好み、当初は建物の下部（床下）を加害する。その後、水を運びながら乾燥した上部を加害する。	建物や土中に塊状の数十万から数百万匹の大きな巣をつくり、加害速度は速く被害は激烈で、乾燥した木材でも水を運んできて湿しながら加害するので、被害は建物全体に及ぶ。	乾燥した木材中に数百匹の小集団で生息し、巣をつくらないで、乾いた木材を加害し、被害は建物全体とともに机、たんすなどの家具調度品にも及ぶが加害速度は遅い。

● シロアリの加害進路イメージ図です。



イエシロアリ、ヤマトシロアリの
加害進路イメージ図



アメリカカンザイシロアリの
加害進路イメージ図

● シロアリがついているかの確認方法です。

次の項目の１つでも該当する場合は、シロアリがいると考えられますので、専門家（蟻害・腐朽検査員やシロアリ駆除業者等）に相談してください。

- 床下の束石、基礎コンクリートの表面に、土で造られたトンネル状の通路（蟻道）がついている。
- 木材の割れ目や継ぎ目に土が詰まっている。
- 木材をたたくと空洞音（ポコポコ等）やドライバーで簡単にほじれる。
- ふすまやドアがスムーズに開かない。
- シロアリの羽アリが群飛している。
- 床がぶかぶかする。

● シロアリ被害写真などです。

束石の蟻道（ヤマトシロアリ）

畳下床板被害（ヤマトシロアリ）

窓枠の被害（イエシロアリ）

小屋組の被害（イエシロアリ）

小屋組の分巣（イエシロアリ）

排出物（アメリカカンザイシロアリ）

● シロアリ被害やシロアリを発見した場合の対応方法です。

○　シロアリ被害やシロアリを発見した場合は、シロアリの種類によっては、建物全体に被害を及ぼすことがあるので、早急に専門家（蟻害・腐朽検査員、シロアリ駆除業者や建築士等）に相談してください。

○　シロアリ被害が認められる場合は、駆除を行うとともに住宅の耐震診断をおこない、耐震診断の結果が倒壊する可能性があるなどの評価が出た場合は、耐震改修工事を行うようにしてください。

なお、昭和 56 年 6 月以前に着工した住宅の耐震診断や耐震改修に対して補助制度を設けている市町村もあります。

（注）補助制度の詳細な事項については、住宅所在地の市町村または県にお尋ねください。

● シロアリ被害からの予防方法です。

ヤマトシロアリとイエシロアリは、多湿を好むとともに土中や建物の中に巣をつくることなどから、次の点に注意をすることで、被害をかなり防ぐ（完全ではない）ことができます。

○　床下換気口等を適切に設置するなどにより床下の通風をよくする

○　床下に木屑や紙などを残さない

○　住宅の周辺の地面に直接木材を集積しない

○　雨漏りはすぐに修理する

○　住宅を建築する際、床下一面をコンクリートとしたべた基礎や防湿コンクリート又は床下に防湿フィルムを施工する。

また、最近見られるようになったアメリカ原産のアメリカカンザイシロアリは、特に多湿を好むことはなく、飛来等により住宅に侵入し乾いた木材の中で活動していることから、現在、特段の防止策は見つかっていません。

あなたの住宅には、シロアリやシロアリ被害の痕跡はありませんでしたか。

近い将来、発生する確率が高いといわれている南海、東南海地震に備え、住宅を長期にわたり良好な状態で使用するためには、柱や土台など住宅の構造上主要な箇所の腐朽やシロアリ被害対策は大切なことです。

安全で安心な生活をおくるため、あなたがお住まいになっている住宅の耐震化を進めましょう。